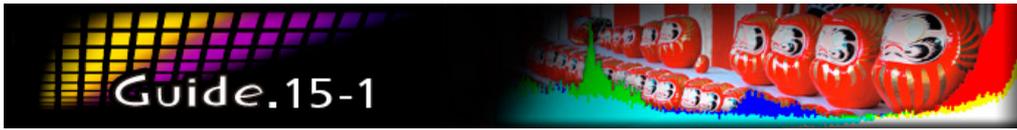


露出オーバー気味の撮影により、白とびが生じてしまったRAW画像の階調を補正したい



> コンテンツトップへ戻る

露出オーバー気味の撮影により、白とびが生じてしまったRAW画像の階調を補正したい

「露出補正」でマイナス補正を行って、ハイライトの階調を補正できます。この操作で画像全体が暗くなるので、「LCHエディター」で明るさを整えます。



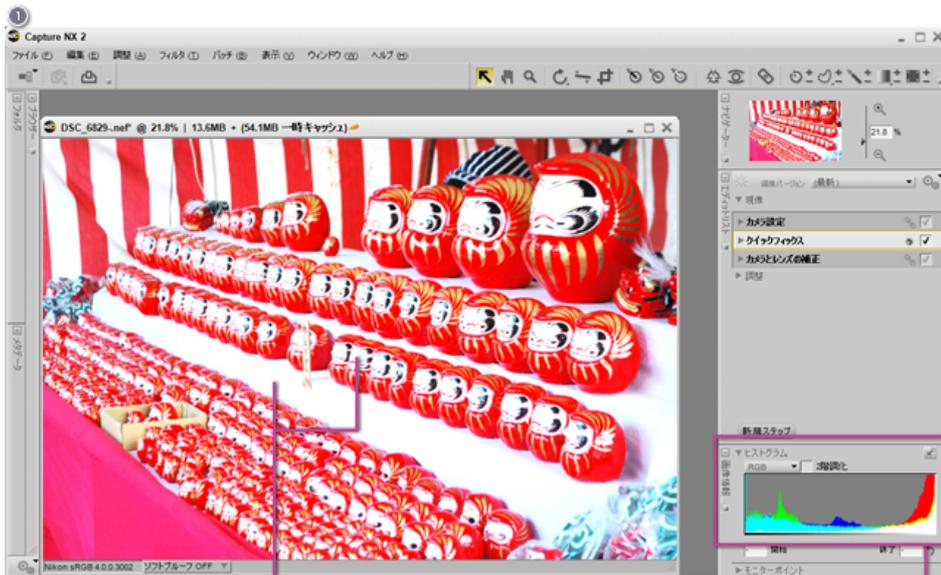
Before
白い敷物、だるまの顔が白とびを起こしています。



After
白とびが抑えられ、階調が補正されました。

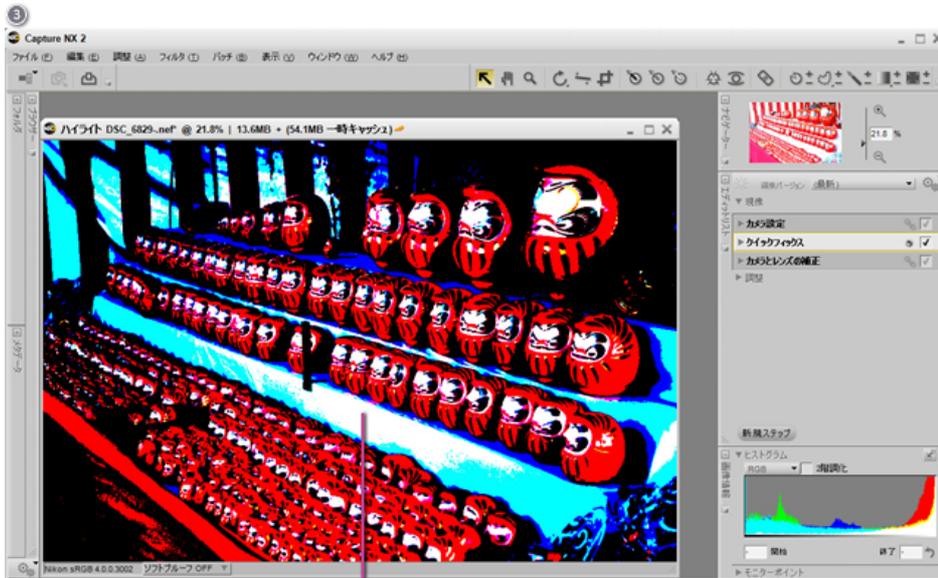
STEP1：画像を開いて白とびを確認します

- ① 画像を開き、ヒストグラムで画像の白とびを確認します。
- ② わかりにくい場合は、「表示」メニューの「白とび表示」を選択します。
- ③ 画像表示が変わり、白とびしている部分が表示されます。白とびを確認したら、再度「表示」メニューの「白とび表示」を選んで、表示に戻しておきます。



このあたりのハイライトが白とびしています。

ヒストグラムからも白とびしていることが確認できます。

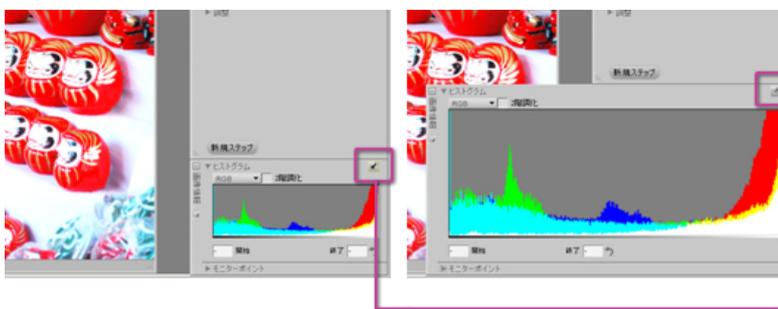


「白とび表示」の状態です。白い部分が完全に白とびしています。赤や青、黄色の部分は、RGBいずれかの階調が飛んでいる部分です。ここでは白とびしている部分に注目します。

ヒント

ヒストグラムの拡大表示

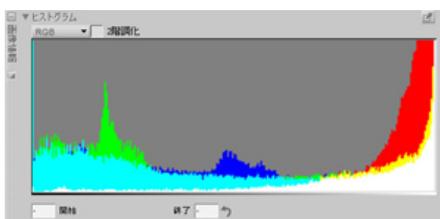
Capture NX 2では、ヒストグラムを拡大表示して見やすくすることができます。「画像情報」パレットの右上のボタンをクリックすると、ヒストグラムの表示が大きくなります。もう一度ボタンをクリックすると小さくなります。



このボタンをクリックすることで、ヒストグラムの表示を拡大・縮小することができます。

ヒストグラムの見方

ヒストグラムでは、主に画像の輝度分布を確認します。グラフの左側はシャドー側の階調、右側はハイライト側の階調です。グラフの山の高さは、その階調に含まれるピクセルがどれだけあるかを示しています。一般的に、グラフの山が左寄りの場合は暗めの画像、山が右寄りの場合は明るめの画像になります。



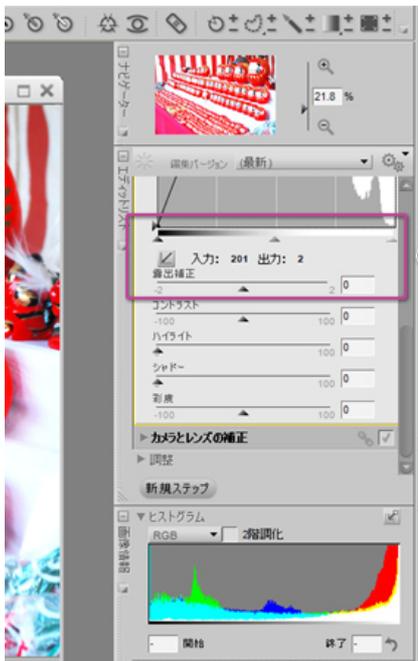
山の高さは、その階調に含まれるピクセルの多さを示しています。この場合、右寄り（ハイライト寄り）に山が固まっています。これにより、この画像は明るめであることがわかります。

シャドー側

ハイライト側

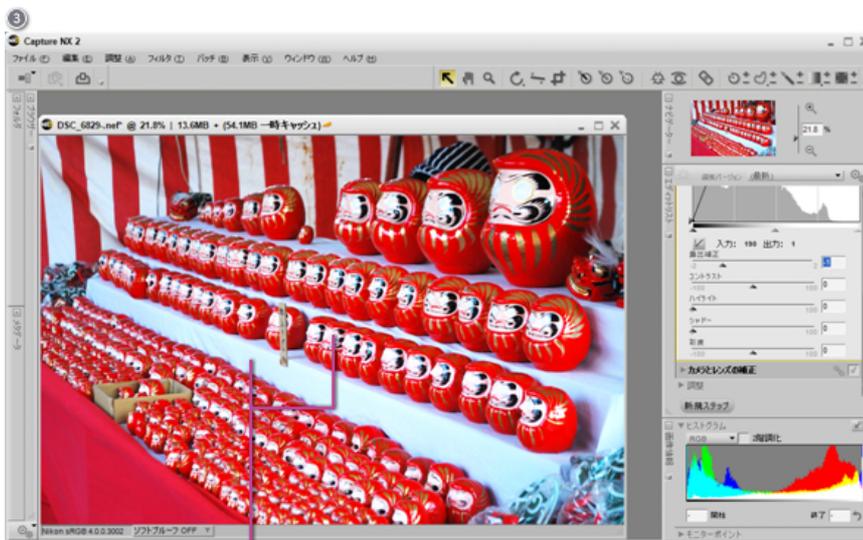
STEP2 : 露出補正を行います

- 1 エディットリストのクイックフィックスから「露出補正」を選びます。
- 2 「露出補正」スライダーを左側に操作して、露出をマイナス補正します。ここではマイナス1段分の補正をしています。
- 3 露出をマイナスに補正するに伴って画像が暗くなります。STEP 1で確認した白とびしてしまった部分の階調が補正されます。
- 4 「表示」メニューの「白とび表示」を選んで白とびの状態を確認します。白とびの状態を確認したら、再度「白とび表示」のメニューを選んで元の表示に戻します。



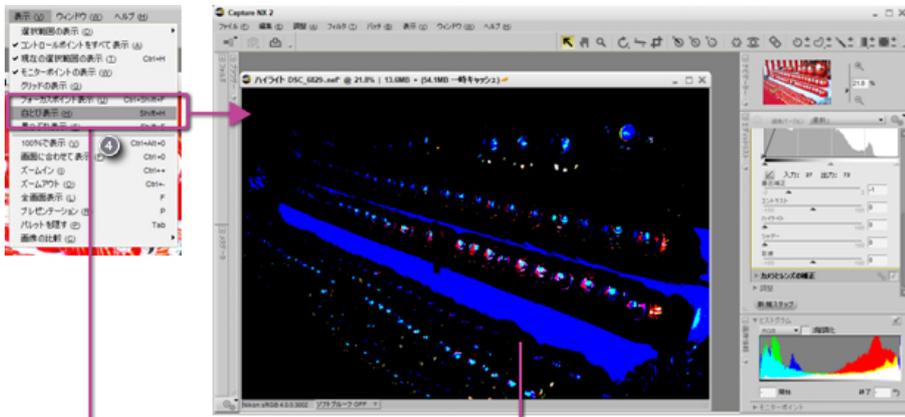
「露出補正」スライダーを左側に操作してマイナスの露出補正を行います。ここではマイナス1段分の露出補正を行っています。

「露出補正」の補正幅
「露出補正」では、マイナス側に2段、プラス側に2段の露出補正が可能です。



「露出補正」について

「露出補正」は、マイナス側に2段、プラス側に3段の露出補正が可能です。ただし、この「露出補正」は階調の復元には効果的ですが、色の復元を保障するものではありません。なお、プラス側、マイナス側それぞれ2段を超えるような白とびや黒つぶれは補正の範囲外となります。

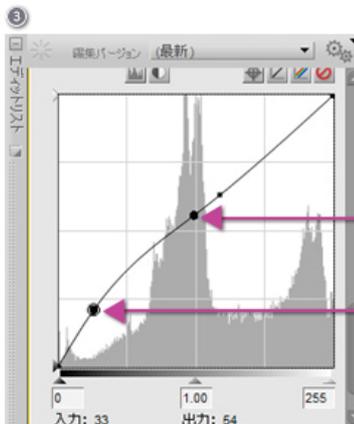
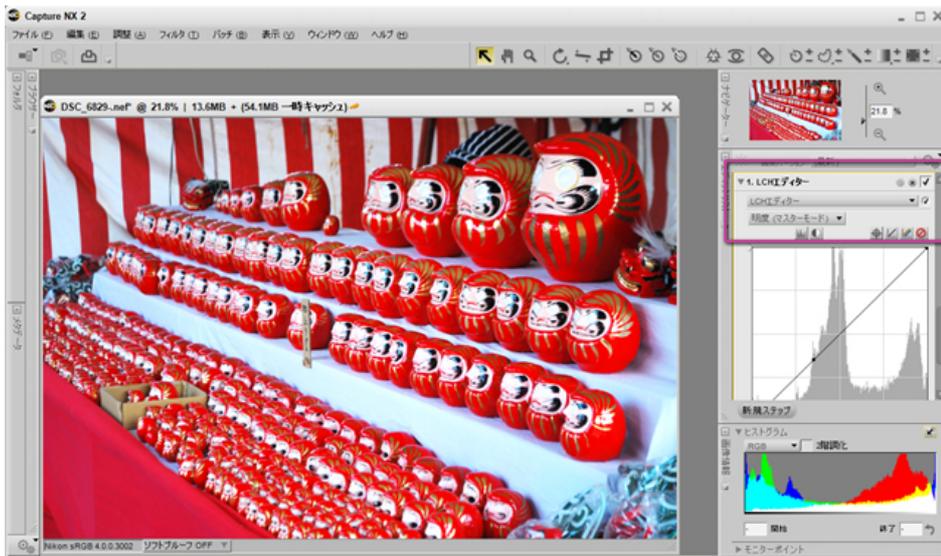
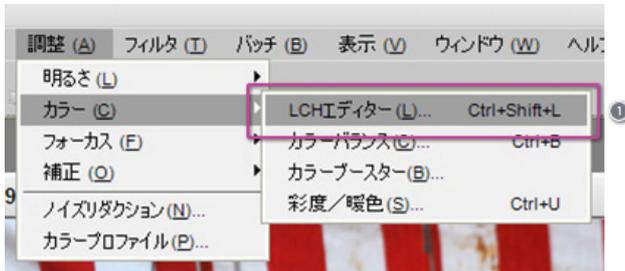


「表示」メニューの「白とび表示」を選びます。白とび表示を確認したら、再度「白とび表示」を選んで、表示を元に戻しておきます。

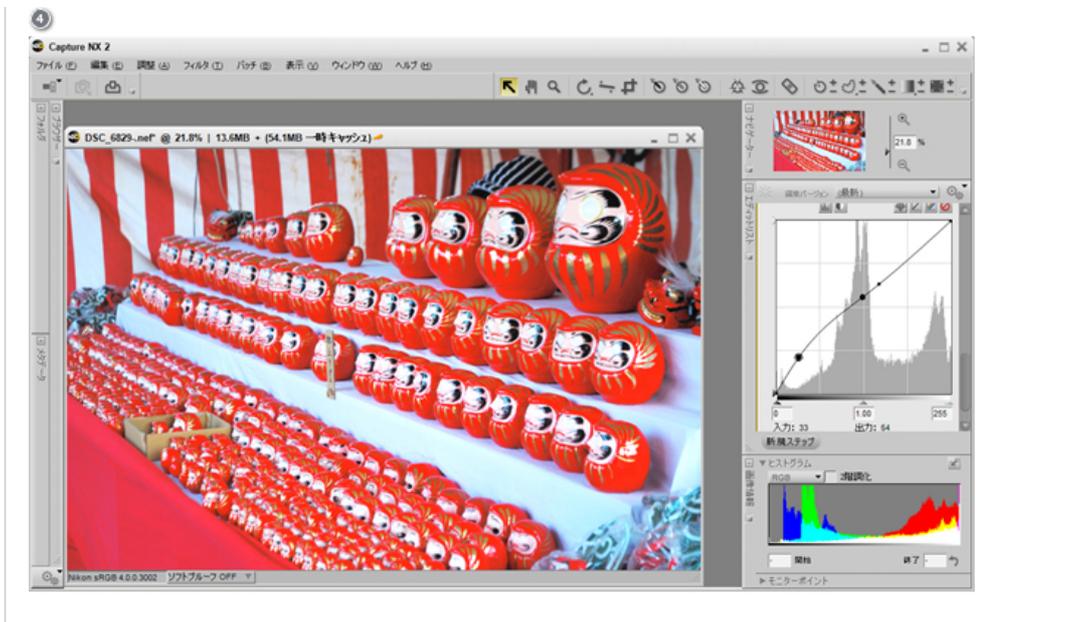
白とびの部分が少なくなりました。

STEP3：「LCHエディター」で明るさを整えます

- ① 「調整」メニューの「カラー」から「LCHエディター」を選びます。
- ② 「エディットリスト」に「LCHエディター」が追加されます。
- ③ 図のように明度カーブを上を持ち上げると画像が明るくなります。白とびを起こさず、画像全体が適度な明るさになるように調整します。
- ④ 「LCHエディター」で調整した分、画像が明るくなります。



ここでは、明度カーブを2箇所、図のように持ち上げて、画像を明るくしています。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部
株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.